

水田内に雑草が見られるほ場で 斑点米カメムシ類が多い

～出穂期24日後頃の適期防除を確実に行ってください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- (1) 8月16～18日に行った抽出ほ場調査（80地点）における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は1.9頭（平成1.2頭）で多く、発生地点率は36%（平成27%）で高かった（表-1、図-1）。種別ではアカスジカスミカメが大部分を占めた（表-1）。水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草（ホタルイなど）が発生しているほ場で斑点米カメムシ類の発生が特に多かった（表-2）。
- (2) 8月12日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと見込まれている。

以上のことから、依然として斑点米カメムシ類の発生が多く、今後、斑点米被害の増加が懸念されるので、以下の対策を行う。

2. 防除対策

- (1) 斑点米は、登熟期後半から発生する割れ粳の増加に伴い、側部加害が主体となるので、今後、2回目の防除が重要となる（図-2）。そのため、出穂期24日後頃に、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布する。
- (2) 茎葉散布剤はエクシード剤（使用時期は収穫7日前まで）又はキラップ剤（使用時期は収穫14日前まで）とする。

3. その他

- (1) 現在、ノビエの穂が見られないほ場でも、8月中旬以降に出穂するノビエがあることから、斑点米カメムシ類の発生状況に注意する。
- (2) 畦畔・農道及び雑草地（法面や休耕田など）の草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行う。
- (3) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などへ防除計画を事前に周知し、みつばちなどへの危害防止に努める。

4. 資料

表-1 水田内における斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月16~18日)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
本年	1.9	36	1.4	29	0.4	13
平年	1.2	27	1.0	22	0.1	6
概評	多	高	多	やや高	多	高

※水田内20回すくい取り調査

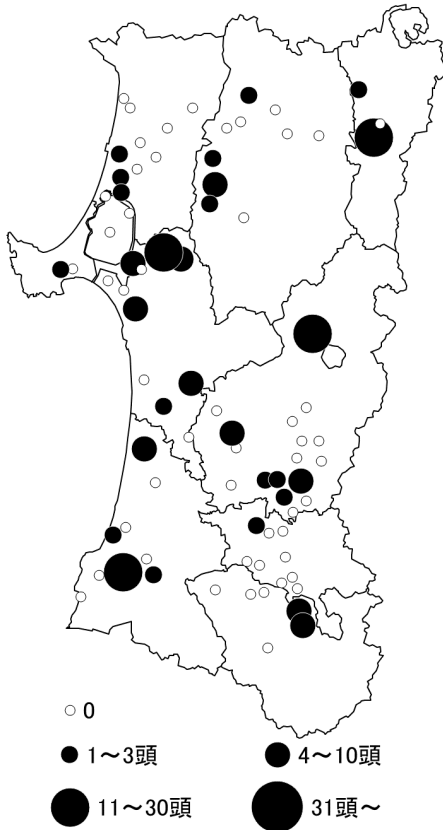


図-1 本田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月16~18日)

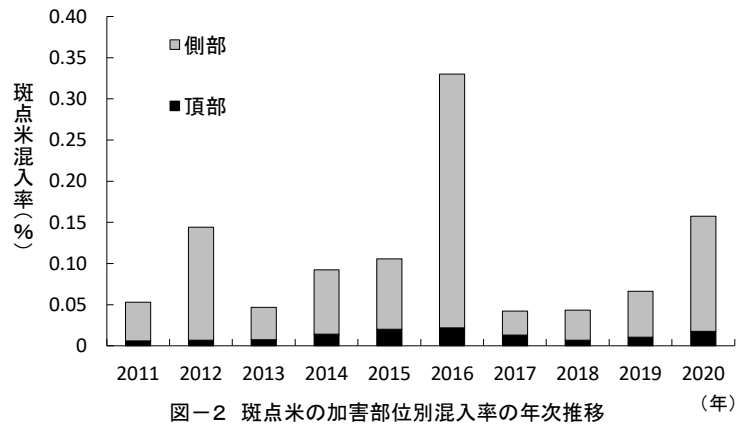


図-2 斑点米の加害部位別混入率の年次推移 (年)

表-2 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月16~18日)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点数	アカスジカスミカメ(頭)	アカヒゲホソミドリ カスミカメ(頭)	合計(頭)
あり	30	2.1	0.8	2.9
なし	50	0.9	0.2	1.1

※水田内20回すくい取り調査

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>